

令和6年度「市民と市長とふれあい対話in奄美高校」での主なご意見と市の対応

2024.12

No.	地区	項目	意見要約	市長回答	所管課	所管課補足
1	奄高	市長の政治姿勢について	市長の仕事の中で一番大変だった事と一番嬉しかった事を教えてください。	市政を預かる立場として責任が伴いますので、一番大変なことは決めづらいですが、災害時の対応は市役所として一番重要なことかと思うので、責任感をもって対応させていただいております。嬉しかったことについては、昨年、日本復帰70周年において、国体や総文祭など様々な行事が開催され、特に高校生の皆さんが主体となって復帰の日の集いを実施していただくなど、素晴らしい記念行事を実施でき、次世代へと繋げることができたと思いますので、そのことがとても嬉しく思ったところです。		
2	奄高	商業施設誘致について	奄美市内を見渡すと小さい子どもや若い世代が遊べる場所が少ないと感じています。天気がくずれると、遊ぶところはほとんどありません。小さい子どもから私たち学生までが遊べる商業施設の誘致をお願いします。マリントウンに人工芝のサッカーコートやバスケットリングのある公園、小さい子どもや若い世代が天候を気にすることなく遊べる商業施設を造っていただけないでしょうか。	（市長） 奄美大島は他の町村も合わせて人口6万人弱です。鹿児島市の人口と比べると10分の1となっており、商圏や経営の観点からなかなか誘致が難しいかと思います。既存の施設を活用して、雨の日でも小さな子どもさんと一緒に遊べる施設を商店街に設置する、笠利町においては、公民館の中にキッズスペースを設置するなど、民間の皆さんの力を借りて増やしてまいりたいと思います。その上で、上の世代の皆さんが遊べる場所については、時間とお金がかかるため、明確に今、お答えすることはできませんが、将来に向けて検討してまいりたいと思います。三儀山の屋内運動場サンドームなど、今現在ある施設の活用などを検討していただきたいと思います。 （総務部長） マリントウンにつきましては、現在「流通・観光・娯楽・交通」に建設が限られております。10年間は現在のまま、継続していくことになりますが、令和10年には規制が外れることとなりますので、民間事業者の皆さんが、必要な施設について建設していただけるものと考えております。	財政課 重点政策推進監	（財政課）（重点政策推進監）補足なし
3	奄高	市営の学生寮について	奄美高校に男子寮が無かったため、下宿に入り、通学しています。奄美高校の近隣には、下宿もあまりなく、下宿代も高いです。市の運営する下宿や寮があればいいのと思っています。奄美市内に下宿して島内の学校に通学する費用と、島外の高校に進学する費用に差がなければ、島外に進学する人が増えるのではないのでしょうか。 もし、奄美市で寮を造ってくださるのなら、例えば、地元食材を活用した食事や伝統文化の継承ができるといった奄美大島の特色を生かした施設にすると、島外から進学する高校生も増えるのではないのでしょうか。これらを踏まえて、市営の寮を造ることはできないのでしょうか。	高校の寮に関して、瀬戸内町は県職員住宅を改修して、古仁屋高校の寮に活用しております。大島北高においても寮の設置について、再度、復活に向けての声を伺っております。奄美市で寮を運営することについては、なかなか難しいのかと思いますが、既存の施設を学生向けの寮として活用していただくことについて可能性はあるのではないかと思います。現在、奄美市では公共施設民間提案制度を設けて、公的な目的で民間事業者に施設を使っていただくことをやっておりますので、民間の皆さんと一緒に考えていくことができるかと思います。	プロジェクト推進課	補足なし
4	奄高	信号機や街灯について	奄美高校に通う通学路において、台風の影響で信号機の向きが変わり、見えづらい状況がいまだに改善されていません。また、通学路に街灯がなく、暗い時間に帰宅する際に、怖いとの声も聞かれます。安心して通学するために通学路の整備をお願いします。	信号機については警察が所管しておりますので、すぐに対応していただけるよう連絡します。ラインで奄美市を登録いただいて、市役所に通報いただける機能がありますので、ラインで投稿いただくか、デジタル投書箱への投書でも結構ですので、内容を教えていただければと思います。街灯に関しては、鹿児島県、奄美市、地元自治会、3箇所が設置している可能性がありますが、具体的な場所をラインなどで教えていただければと思います。	土木課 総務課	（土木課）（総務課）補足なし

No.	地区	項目	意見要約	市長回答	所管課	所管課補足
5	奄高	奄美市の未来について	奄美市が更に発展していくために、これからやっていきたいことを教えてください。市長が思い描く、将来的な計画や、その計画がいつ頃実現しそうなのか教えてください。	奄美市は少しずつ人口が減少してきております。移住支援や子育て支援の充実により、人口減少を食い止めようとして取り組んでおりますが、日本全体が人口減少の局面にありますので、人口を維持するだけでも難しい状況かと思えます。人口減少下であっても活力を失わない、そういう地域づくりをやっていきたいと思っております。私の掲げるマニフェストに「かせぐ」「まもる」「そだてる」の3つの柱がありますが、1つ目の「かせぐ」について、奄美で働いて、稼げるようになることが、若い世代も帰ってきやすい地域になると考えます。そのために、現在、観光面での高付加価値に取り組んでいるところですが、具体例を上げますと、住用にありますマングローブパークのカヌー料金を令和6年4月から値上げし、売上げ・利益とも増加したところです。奄美の価値を認めていただいて、観光産業だけでなく、他の産業でも取り組んでまいりたいと思います。二つ目の「まもる」ですが、「つながる相談室」を2年前に新設し、市民の皆さまのあらゆる困りごとをワンストップで受け付けて、関係する市役所内外の関係機関に繋ぎ、解決に導く取組みをさせていただいております。最後の「そだてる」ですが、こちらは若者支援になります。高校の魅力化なども含めて、高校生の地域活動への取組みを更に手厚くしようと考えております。以上、3つの取組みなどを通じ、人口減少化でも活力を失わない地域を目指していけるのではないかと考えております。また、私の任期は1期4年間ですので、4年前より少しでも向上させていくのが、私にとっての大事な目標としております。	企画調整課 福祉政策課 プロジェクト推進課	（企画調整課）奄美市の課題や取組の方針につきましては、「未来の奄美市づくり計画」や「『未来づくり』総合戦略2025」等にも記載しております。市HPに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。 ・奄美市の施策・計画（奄美市HP） https://www.city.amami.lg.jp/shise/shisaku/index.html （福祉政策課）（プロジェクト推進課）補足なし
6	奄高	Z世代に向けた取組みについて	私たち奄美で生活しているZ世代は、観光地としての魅力ももちろん大切ですが、私たちの今の生活を充実させるために、島内にも魅力的なショッピング施設や娯楽施設があればと思っています。今、Z世代の人たちが島に残り続けたいと思うような魅力的な取組みを具体的に教えてください。	若い世代の皆さんが島に残りたいと思えるような取組みですが、高校の魅力化や若者世代のチャレンジを応援する事業を展開しております。今の若い世代の皆さんは、島にないものがあれば、自分たちで何かできないかと取り組む意欲が凄く高いと思いますので、活動しやすい環境や財政面での支援をこれからも継続したいと考えているところです。また、奄美には都会にないものがたくさんありますので、どちらも大切にするために、交通アクセスや航空路線をこれからも維持して、便利に、気軽に往復できるような取組みも大切かと思えます。ライフステージに合わせて二地域居住も含め、奄美でも生活しやすいよう環境の整備を図っていきたいと思います。		
7	奄高	奄美市の変化、また、若い世代に期待することは。	市長になられて3年経つと思いますが、住んでいる者からすると変化に気づけていない部分があるため、3年で奄美市が変わったところを教えてください。また、奄美高校の生徒、ひいては、奄美大島の若い世代にどのようなことを求め、期待なさっていますか。	3年間で変わったところについて、新しい取組みや政策について、令和6年度は50件近く実施しており、官民連携が少しずつではありますが、進んできたかと思えます。例を上げますと、企業・奄美市で連携協定を締結した実証事業を、3年間で15件程度行ったところです。行政の力だけではよりよい奄美市を創り上げることはできないと思いますので、民間の企業、団体など、今後とも様々な皆さんとの連携や対話によって、力を発揮していただくことを進めてまいりたいと思います。市としての政策を作るプロセスも少しずつ変わりつつあると思いますが、今後とも民間の皆さん、市民の皆さん含め、奄美市の皆さんが求める政策の実現に向けて、近づけてまいりたいと思います。 若い世代に期待することとしては、ぜひ、ないものを自分たちで作り出す、また、今ある奄美市の魅力・宝・価値・文化・歴史・人と人との繋がりなど、しっかりと若者の皆さんにバトンタッチしたいと思っておりますので、高校生活を送りながらも、奄美市を盛り上げるパートナーとして、一緒に力を発揮していただきたいと思います。	プロジェクト推進課 企画調整課	（プロジェクト推進課）（企画調整課）補足なし